



利根保健生活協同組合 **利根中央病院**
発行人：糸賀 俊一

〒378-0053 沼田市東原新町1855番地1 TEL.0278-22-4321
ホームページ <http://www.tonehoken.or.jp/>

当院における 消化器治療について

消化器内科 医長 石田 克敏



当院は、北毛地区唯一の総合病院機能を担っています。当科は、胃カメラ・大腸カメラを中心とした検査、内視鏡を用いたポリープ切除・消化管出血・総胆管結石などの治療を行っています。

▶内視鏡室スタッフ
石田医師（前列中央）
井上医師（前列右端）



疾患について

日本人が、生涯に癌に罹患する割合は、男性で60%・女性で45%と非常に多くの方に発生しています。そのうち消化器癌でまとめると男性が28%・女性で19.4%で癌患者様の半数近くが消化器癌ということになります（厚生労働省・最新がん統計：2010年のデータより）。

	男性	女性
食道	2%	0.4%
胃	11%	6%
大腸	9%	7%
肝臓	4%	2%
胆道	2%	2%
膵臓	2%	2%
消化器癌	28%	19.4%
癌全体	60%	45%

また、消化管出血や総胆管結石など癌以外の疾患も多いのが、消化器疾患の特徴です。胸やけなど症状を主体とした「逆流性食道炎」や、胃もたれ・膨満感などの症状を伴う「機能性ディスぺプシア」など生命にはかかわる病気ではありませんが、つらい症状により生活の質を大きく低下させてしまう病気もあります。

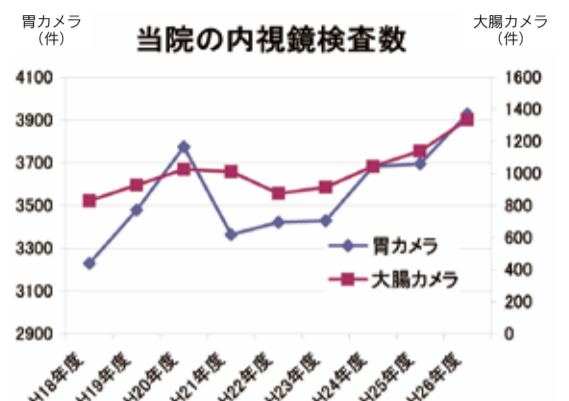
早期発見・早期治療のために、市町村検診や人間ドックをぜひ積極的に受けましょう。

診療体制について

外来は、群馬大学から診療支援をいただき、専門外来も行っています。疾患の種類・重症度・緊急性などにより、他院や前橋・高崎地域の病院へ紹介させていただくこともあります。ご了承ください。

当院の消化器内科の特徴は、消化器外科と同じ病棟に病床があるということです。消化器外科と連携した医療・看護の提供をしていくことで、より良い治療をご提供できればと考えています。

また、平成26年度より着任した総合診療科・鈴木医師とも協力し、合併症の多い方にもなるべく当院での検査・治療を安心して受けていただける環境づくりを図ってきました。今年度は総合診療科医師が増えましたので連携を強化し、地域のご期待にいつそう応えられる環境を整えます。



今後に向けての取り組み

①内視鏡検査の苦痛軽減にむけて

内視鏡検査は消化管内腔の観察のために空気を送ることが必要です。大腸ポリープ切除や内視鏡的胆管膵管造影検査など処置・治療時間の長いものでは、検査後の苦痛が問題となっています。空気の代わりに二酸化炭素を使用することで、検査後の膨満感などの苦痛が軽減され、また、画質の良い内視鏡検査の提供は、癌の早期発見や検査時間の短縮につながります。

新病院では、上記2点を導入し「なるべく苦痛の少ない検査・処置の実現」に向けて、内視鏡技師とともに地域の皆様に貢献します。

②地域の総合病院としての機能維持にむけて

総合病院の使命として、「地域完結の医療を目指すべき」と考えます。その中で「救急医療への対応」・「他の地域の水準に追従すること」の2点が責務と思います。

「救急医療への対応」は、医師の人員増が必須ですが、総合診療科医師と協力し、できる限り多くの時間帯での急患対応をしていきたいと考えています。

また「他の地域の水準に追従すること」では、超音波を体内から送受信し消化管壁や周囲組織・臓器などの診断検査・治療を行い、膵癌などの早期診断に寄与する超音波内視鏡（EUS）と、粘膜の浅いところに留まる早期の胃癌・食道癌・大腸癌への治療法である内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）とがあります。今後これらの導入を検討し、このような高度医療が当地域で受けられるよう、当院としても追求していきます。

新病院建設進捗状況

▼内装：壁のクロス・床貼りは4月末に終了となりました。同一フロア内に2つの病棟が設置されるため、壁紙の色を変えています。



A病棟の病室



B病棟の病室



▲外構：植栽帯に客土が入り、シンボルツリーの「カツラ」をはじめ、木々の植栽が行われています。4月下旬から駐車場のアスファルト舗装が行われ、現場事務所が移設となります。

新病院の電気設備について

株式会社 関電工

利根中央病院様とのご縁について

利根保健生活協同組合様とのご縁は、昭和61年・利根中央病院第5期増築工事を皮切りに、平成4年・利根中央病院空調電源設備増設工事、平成6年・利根中央病院第6期増改築工事、平成9年・利根中央病院看護婦寮増築工事、平成14年・介護老人保健施設とね増築工事、平成15年・利根歯科診療所新築工事、平成21年・利根中央病院発電機更新工事と続き、そして平成25年・（仮称）利根中央病院移転新築工事をご下命いただき、現在施工中でございます。これまで、利根保健生活協同組合様とのお付き合いは29年になります。

このように、長い間お仕事をさせていただけたのも、ひとえに生協関係者様からのご指導の賜物と心から感謝申し上げます。

新病院電気設備の特徴

新病院の電気設備の大きな特徴としては、2点あります。

1点目の特徴として、新病院が地域の災害拠点病院であること。大規模災害時には病院機能が維持されていることが重要となります。病院機能を維持するために必要な電力の確保、そのために、



◀ 高圧受変電設備 設置状況

約3日間連続運転可能な非常用発電機（875kVA）を設置、停電時に防災関連機器および保安用機器（医療機器）などへ、自動で速やかに電源のバックアップがおこなえるよう電源網を構築しています。

2点目としては、新病院の電気設備の施工にあたり設計のコンセプトでもある省エネ・長寿命を考慮して照明器具を選定しました。従来の蛍光灯型器具と比較すると約44%の省エネが図れる最新型のLED器具を採用、スタッフエリア、HWCなどでは、人感センサー採用、外光が入る場所には明るさセンサーを採用しより省エネ効果を高め、明るく快適な診療・療養環境づくり目指して日々、施工にあたっています。



◀ 非常用発電設備 搬入据付状況

安全への配慮

現在、建設工事は仕上工事の最終段階に入っています。電気工事も作業員の人数・業種も増え、今が作業員の人数もピークとなっています。新規で入場する作業員、担当部門の施工を終え現場を離れていく作業員など日々入れ替わっていきます。新規の作業員が現場に早く慣れ、安全に作業ができるように、先輩作業員と積極的にコミュニケーションを図り、お互いが声を掛け合えることで、未然に災害を防げるような環境づくりを中心に行っています。竣工まで残り3カ月余りとなりました。引き続き、無事故・無災害で建物を引き渡せるよう実施してまいります。

組合員様の「夢をかたちに」を胸に、皆様喜んでいただける建物をお引き渡しできるよう、精一杯努力いたしますので引き続きよろしくお願い申し上げます。

電気の引き込み(受電)が完了!

4月16日（木）、新病院で使用する電力が機械棟の電気設備で無事受電し、変電できることが確認できました。



これにより東京電力から「総電圧6600ボルト」という膨大な電圧が引き込めることとなります。

今後、病院内の各エリアに送電し、エリア毎に確認しながら電気が使用可能になっていきます。

